



道祖土小

学校だより

校訓 明るく 仲よく たくましく

7月号 令和8年6月30日発行

〒336-0907

さいたま市緑区道祖土1-1-1

電話 048-885-2512

FAX 048-811-1328

Web <http://saido-e.saitama-city.ed.jp>

E-Mail saido-e@saitama-city.ed.jp

「直接体験の大切さ」

校長 荒木 大輔

晴れた日の空に姿を現す積乱雲を見ると、まさしく「夏の到来」を感じます。でも、さいたま市から220km離れた標高1000mを超える高さには、まだ春を代表する積雲が見られ、太陽の日差しの強さとは対照的に、爽涼感いっぱいの心地よい風が、野外活動でかいた私の汗を優しく乾かしてくれました。そして、6月27日の午前に南会津の山々を覆った綿雲と、自然が織りなす幾重にもなる様々な緑色の風景を5年生と一緒に見ながら、自然の豊かさや美しさ、そして、力強さや逞しさに感服させられました。



「自然に触れ、自然に学び、自然で鍛える」という基本理念に基づき、「自然を大切にする気持ちと、態度を育てる」「集団生活を通して、自主自立・協力・責任・思いやりの態度を身に付ける」「自分や友達のよさに気づき、互いに向上しようとする態度を養う」という「三つのめあて」で行われる、さいたま市の自然の教室。本校でも、5学年担任が、子どもたちにとって自然の中で五感をはたらかせて取り組めるような自然体験活動を計画し、二泊三日の中で活動してきました。

自然の素材を使った「焼き板」作りは、子どもたち自らが火を起こす難しさに直面しつつ、理科で学習する「物が燃えるには、空気が必要」であることを想起し、何とか試行錯誤して薪を燃やした火を使って、世界に一つしかない、自分が作った自分だけの杉焼き板を完成させました。自然の静寂から始まった「キャンプファイヤー」では、炎の明かりと大自然に包まれながら踊ったフォークダンスやリズムダンスをとおして、体育館で練習した時よりも何倍も、体全身を動かす喜びを味わっていました。足元が岩や木の根で凸凹した、雨でぬかるんだ急な長い斜面を、息を切らし、足の痛みにも耐えながら登った「前山登山」では、途中で何度も「登れない」と思った気持ちに仲間と一緒に打ち勝ちながら、最後まで登り切った達成感を通して、「最後までやりきる」「仲間と励まし合う」ことのよさ・大切さを実感していました。生きた岩魚を手掴みで持ち、自分の力で捌き、串刺しまで丁寧に心を込めて行った「川魚捌き」では、「食する＝命をいただく＝自分の身体の中で生き続ける」ことを学ぶにあたり、道徳や食育の時間よりも、子どもたちの目が真剣でした。都会の夜とは違った、真っ暗な空間を恐る恐る進んだ「ナイトハイキング」では、目では分からない自然界のたくさんの音色や匂いを感じ取りながら、昼間の世界との差異に、貴重な「非日常体験」を経験することができました。

現在の学校現場では、教育DXの必要性が高まり、デジタルコンテンツを活用した学びが重視されてきています。そんなデジタル社会が加速する現代であるからこそ、子どもたちには、バーチャルでは得ることができないリアルな体験・実感に満ちた「直接体験」を伴った活動も重視していく必要があるでしょう。この、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」といった認知能力と「学びに向かう力」「ものごとをやり抜く力」「責任感」「規範意識」「課題発見」等の学びの下支えとなる「非認知能力」の二つの力を合わせた「真の学力」を育成する上で、5年生の自然体験活動は、子どもの非認知能力を補完する貴重な教育機会であったと捉えています。

是非、御家庭でも、約1カ月間の夏休みを上手にを使って、お子様の全人的な成長を促す「直接体験」に触れる機会を、大切にしていだけたらと思います。そして、二学期の活躍の一助にしていだけたら幸いです。